

「科学 Try アングル岡山」 行事等 報告書

| | | | | | | |
|--|-----------------------------|----------|---------------|--------|---------|---|
| 行事名 | 第2回 科学チャレンジコンテスト | | | | | |
| 担当部門・機関 | 先進科学教育部門・倉敷芸術科学大学 | | | | | |
| 開催日時・期間 | 平成22年2月6日(土) 12:30~17:30 | 場所 | 岡山大学創立五十周年記念館 | | | |
| 《概要》 | | | | | | |
| <p>科学の諸領域に対して、主体的にチャレンジする態度や姿勢を育成し、その成果の発表を通して科学リテラシーとプレゼンテーション能力の向上を目的とするものである。本年度で2回目となる本コンテストは、県内の中学校(4件)高等学校(9件)大学高専(6件)のエントリーがあり、選考委員会を経ての開催となった。各発表者とも、自身の研究分野について10分間という短い時間内であったが、趣向を凝らしたプレゼン手法により、聴衆に分かりやすく、また、興味を大いに惹く発表を行った。</p> <p>また、会場1階の交流サロンでは高校生によるポスター発表や、レスキューロボット等の展示・実演が行われ、参加者から好評を得ることができた。</p> | | | | | | |
| 《参加者》 | | | | | | |
| <p>参加実績 180名(受付名簿による。ただし、実際には受付を通らず参加された方が多数おられました。)</p> <p>一般参加者(小中高生 58名、大学・高専 5名、教育関係者 37名、一般 16名) 116名</p> <p>関係者(発表者含む) 64名</p> | | | | | | |
| 《審査結果》 | | | | | | |
| | 科学大賞 | 科学チャレンジ賞 | 科学プレゼン賞 | ベスト応援賞 | 科学ポスター賞 | 発表者(グループ) |
| 中学生の部 | | | ○ | | | 塩の結晶構造 岡山県立倉敷天城中学校 渡邊 侑 |
| | ○ | | | | | ハニカム構造の形 岡山県立倉敷天城中学校 三宅 悠太 |
| 高校生の部 | | ○ | | | | 矢掛町のうどんこ病菌の分類と防除の研究 岡山県立矢掛高等学校 後藤グループ 後藤 良子、吉田 阿見 |
| | ○ | | | | | ジャンボタニシの行動学的研究 岡山県立倉敷天城高等学校 渡辺 裕也、中根亮、高山 充樹、託摩 友子 |
| | | | ○ | ○ | | 自給率向上への挑戦 岡山県立高松農業高等学校 畜産科学科2年 小家畜専攻生 田淵 新太郎、灰原 政志、板野 孝成、藤岡 由圭、日野 源太、下玉利 賢輔、谷満 桜 |
| 学生の部 | | ○ | | | | 音力発電の効率よい発電方法と太陽光発電との発電量の比較 岡山県立玉島高等学校 森本 裕彌 |
| | ○ | | | | | ショウジョウバエ頭部形成における dve 遺伝子の機能解析 岡山大学大学院 依光 武志 |
| | | ○ | | | | 小豆島のコケ植物を探る 岡山理科大学 鈴木 千尋 |
| | | | ○ | | | 映像の不思議 倉敷芸術科学大学 Studio12 近成 和輝、高岡 尚司、大西 雄介 |
| | | ○ | | | | 燃費競技車両動力機関のミラーサイクル化 津山工業高等専門学校 津山高専 内燃機関同好会 岡 大志、小笠原 雄一、古矢 和希、山崎 義久 |
| | | | | | ○ | 磁性体のキュリー一点に着目した熱機関に関する研究 岡山県立岡山一宮高等学校 |
| | | | | | ○ | 地域の親子を対象とした科学実験講座の実践報告 岡山県立玉野高等学校 |

《当日の様子》



第2回科学チャレンジコンテスト 集まれ！科学好き 科学好き発表会

平成22年2月6日土曜日 岡山大学創立五十周年記念館



(左) 学生の部・科学大賞受賞の岡山大学大学院 依光さんの発表の様子

(右) 審査委員長 NHK 解説主幹 室山氏による講評の様子



(左・右) 岡山理科大学レスキューロボット展示・実演コーナーの様子

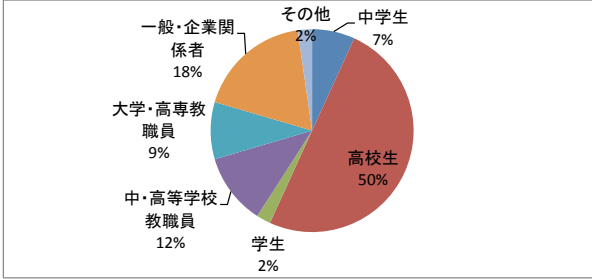


第2回科学チャレンジコンテスト アンケート集計結果(回答総数44)

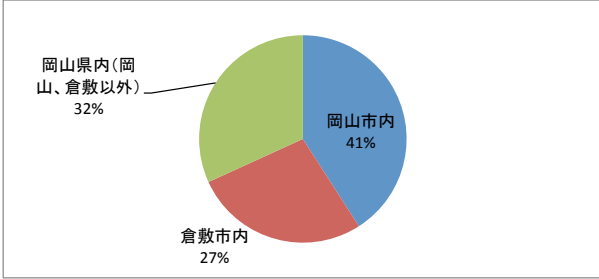
参加者合計:180名 内アンケート回収44名(回収率24.4%)

問1. あなた自身についてお伺いいたします。

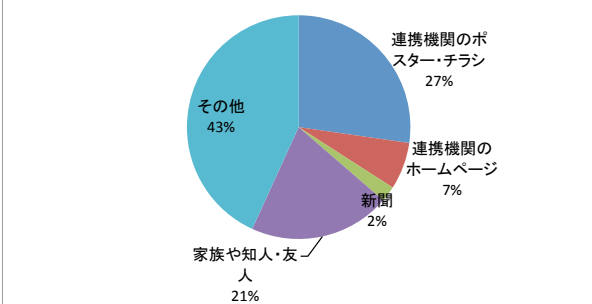
①あなたの所属校種やご職業など



②あなたのお住まい

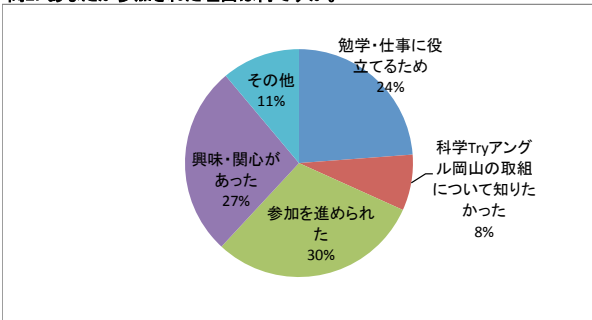


③今回のイベントが開かれることを何によって知りましたか。



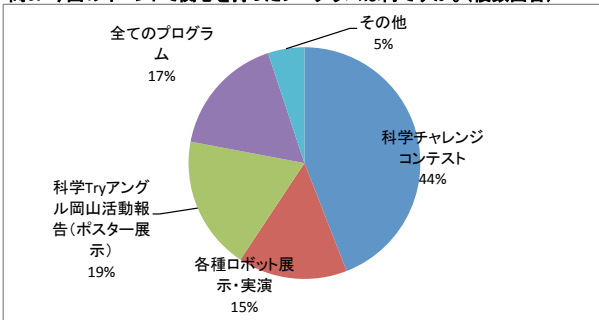
「連携機関のポスター・チラシ」、また「ホームページを見て」の来場者が34%となった。この割合は昨年度にくらべ17ポイントの減少である。情報発信のツールとして、ターゲットを意識した、チラシ・HP等のいっそうの活用が望まれる。また、その他は所属の先生から勧められたという回答が多かった。

問2. あなたが参加された理由は何ですか。



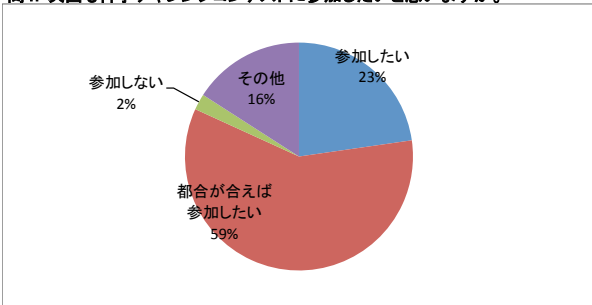
学校から「参加を進められた」が30%と一番多かったが、「勉強・仕事に役立てるため」24% 「科学Tryアングル岡山の取組について知りたかった」8% 「興味・関心があった」27%など、意欲的に参加したことが伺える回答が6割近くあった。

問3. 今回のイベントで関心を持ったプログラムは何ですか。(複数回答)



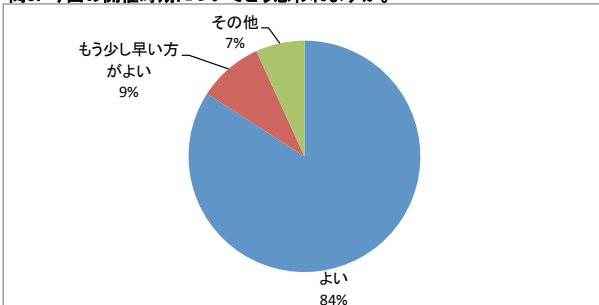
メインのコンテストへの関心も強いことが分かるが、実際に目で見て体感できるコーナーへの関心も同様に高いことが伺える。本イベントでの集客に大いに効果があったと思われる。

問4. 次回も科学チャレンジコンテストに参加したいと思いますか。



「参加したい」、「都合が合えば参加したい」が全体の約8割との前向きな回答を得た。回答者の約6割が中・高生であることから、科学にチャレンジする意欲を伺わせるデータを得ることができた。

問5. 今回の開催時期についてどうお考えですか。



昨年度には、発表に携わった生徒からもう少し早い時期の開催を望む声があった。昨年度より約1ヶ月繰り上げて実施したので「よい」が増加し、約8割を占めた。

問6. ご感想、ご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。(原文のまま)

(中学生)

中学生の部のときに、本当にほんと中学生なのかそのレベルの高さに驚いた。

(高校生)

多くのポスターを見ることができ、新しい発見もあり、良かったです

クリッカーを頂ければうれしかったです。途中参加のため頂けず。

とてもよかったです。

とても素晴らしい発表ばかりで良かったと思います。

いろいろな人の発表が聞けて楽しかったです。

(中・高等学校教職員)

学生の成果発表という場として、時期のよさ、コンテスト形式は普段の取り組みへの意識の向上に役立ちました。

生徒への持参品や集合時間などの案内がもう少し詳しく、早めにはいただけたらよかったです。企画から運営まで大変だったことでしょう。大変すばらしい会だったと思います。ご苦労様でした

(大学・高専教職員)

中学生の参加がありよかったです。もっとPRすれば良いと思います。

様々な着眼点があって、おもしろかった。司会の女性の柔らかな声と間の取り方もよかったです。

(一般・企業関係者)

中・高校生の最終学年も受験に影響されず参加できる時期が良いのでは。

大変素晴らしい内容の発表ばかりでした。内容の素晴らしさの割りに聴衆が少ないのはとても残念でもったいない気がします。各学校への広告をもう少ししたら良いのではないのでしょうか。

中学の部をもう少し多く見たかったです。中学の部高校の部と分けたらどうですか。

中高生の発表について、フォロー指導したほうがより盛り上がるのでは？そうすれば高大連携も進むと思います。

会場の席が空いていたのでもっと多くの人に聞いたり見してほしいと思いました。